

アレルゲンで免疫療法も

病院の実力 ～愛知編 134

今回は、ぜんそくを取り上げた。発作時にせき込んだり、息苦しくなったりするぜんそくの患者は、全国に800万人いると考えられている。重症化すると命にかかわることもある。正しい診断と治療を受け、発作を抑えることが大切だ。

一覧表には、2018年に

ぜんそく

診療した患者数のほか、分子標的薬と免疫療法の治療実績を掲載した。

ぜんそく患者は、空気の通り道である気道に炎症が生じており、少しの刺激にも敏感だ。ほこりやダニなどのアレルギー物質（アレルゲン）を吸い込んだり、風邪をひいたりすると、反応で気道が狭まり、激しい発作が起きる。

気道を広げる薬と、炎症を抑えるステロイド薬による治療が基本だが、十分に発作を抑えられない重症患者も1割程度いる。こうした患者に効果が見込めるのが、分子標

的薬だ。

アレルゲンなどに接すると、発作を引き起こす原因物質が体内で作られる。分子標的薬は、原因物質が働くのを邪魔して発作を抑える。原因

物質には複数の種類があり、それぞれに合った薬が作られている。

微量のアレルゲンを体内に取り込んで体を慣らし、アレルギー反応を抑える免疫療法も行われている。

発作の頻度など病状に関する情報を医師と共有し、治療内容を決めていくことが欠かせない。

病院の実力「ぜんそく」

医療機関別2018年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	ぜんそく患者数(人)	分子標的薬投与患者数(人)	アレルゲン免疫療法実施患者数(人)
愛知			
安城更生	4424	56	0
藤田医大ばんだね	4046	35	66
藤田医大	3210	59	0
名古屋市大	3200	12※1	2※1
公立陶生	2178	37	1
小牧市民	1846	8	—
はるひ呼吸器	1568	0	0
豊田厚生	1289	4	0
海南	1090	—	—
愛知医大	1034	20	10
刈谷豊田総合	893	4	0
地・中京	836	6	9
豊橋市民	672	13	0
名古屋大	350※2	12	0
春日井市民※1	271	0	0
名古屋市立東部医療セ	198	4	0
岐阜			
県総合医療セ	593	12	8
県立多治見	390	4	0
朝日大	45	2	0
三重			
伊勢赤十字※3	20	5	—

「地・」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明。※1成人のみ、※2概数、※3呼吸器内科のみ

全国の調査結果は19日の「安心の設計面」に掲載しました。